NIA LETTER

Vol. 22

2021. 9

発行元／公益財団法人新潟県国際交流協会
（NIA）Niigata International Association

NIA公式Facebook

今号の表紙　国際交流連絡会議（左上）、ゴールデンウィーク韓国フェア（右上）
やさしい日本語研修会（左下）、NIA LETTER 編集ミーティング（右下）

Contents

特集　多文化共生への取り組み　―わたしたちにできること　▷2
多文化共生シンポジウムの開催報告や、新発田市多文化共生コーディネーターの取り組みについてご紹介します！

■2021年度留学生交流推進員をご紹介します！ …… 5
■外国人相談の窓から～外国人相談センター新潟通信～ …… 6
■ワールドコラム～Vol.1 イギリスからこんにちは～ …… 7
■プチ外国文化講座～ロシア編～・４コマ漫画 …… 8

特集　多文化共生への取り組み―わたしたちにできること

「多文化共生」ということばを聞いたことがありますか？多文化共生とは、日本人も外国人も、互いの文化の違いを認め合いながら、社会の一員としてともに生きていくことです。

日本では、人口規模に関わらず全国的に在住外国人の数が増えています。新潟県でも、仕事や留学を目的に来日し頑張っている多くの外国人が生活しています。

新潟県国際交流協会では、2021 年５月 29 日（土）新潟日報メディアシップで、国籍や文化を問わず、誰もが活躍できる活力ある地域づくりをテーマとしたシンポジウム『多文化共生シンポジウム in Niigata　みんなでつくる　みんなのまち』を開催しました。

Ⅰ基調講演　「私たちは変われるか？―多文化共生社会に向けて」

講師：明治学院大学教養教育センター　准教授　長谷部　美佳　氏　　オンラインでの登壇

社会学や多文化社会論などを専門とする明治学院大学教養教育センター准教授の長谷部美佳氏から、日本の在住外国人の現状について、また外国人材の受け入れに関して日本政府が進める政策や、地方自治体が策定する多文化共生施策について解説がありました。また、長谷部氏が実際に調査研究活動を行う神奈川県営いちょう団地（多くの外国籍住民が暮らす、大規模な公営住宅）の事例とともに、多文化共生社会を実現するためには、在住外国人自身が日本社会で認められているという認識を持てるようにすること、日本社会が意識的に在住外国人の活躍の場を作ることが大切であると述べられました。

Ⅱ講　　演　「新たな大学の挑戦～イノベーションとダイバーシティをつくる～」

講師：三条市立大学　学長　アハメド・シャハリアル　氏

2021 年４月に開学した三条市立大学の学長　アハメド・シャハリアル氏から、同大学の特色ある教育カリキュラム等についてお話しいただきました。学生が大学で得た「知識」を地元企業での実習を通じて「経験」でつなぎ、更なる想像力や創造性へと発展させるための『産学連携実習』についても詳しいお話がありました。三条市立大学では今後、外国人留学生の受け入れも視野に入れていますが、まずは、大学が地域の環境に適応するため努力すること、それによって地域住民の方々から新たな大学を受け入れてもらうことこそが、多文化共生への第一歩であると述べられました。

参加者の声

新潟市・T さん

今回私は、シンポジウムのチラシを拝見した際、現在の外国人受け入れ状況が知りたいと思ったのが些細なきっかけとなり参加を決めました。近年、海外移住者をもっと受け入れられるよう「平等に」と言われていますが、現在では、その「平等」のその先の対策を考えなければならないということを知りました。多文化共生は、海外から積極的に受け入れようとする意識だけでなく、政策や対策を練り、いつでも受け入れられる環境を作っていくべきと、改めて感じました。

新発田市・F さん

多文化共生に関心があり、今回、参加しました。お話を聞き、県内に住む外国人の皆さんに対する考え方が大きく変わりました。少子高齢化が進み、日本人人口が減る中、外国人住民の数は増えており、海外から日本に来て働いてくれる貴重な存在です。

一番の驚きは、県外の事例です。地域の住宅団地で一緒に暮らしていた外国人世帯が豊かになり、地域を離れた結果、残された日本人がさらに厳しい状況になった事例でした。今、住んでいる地域が今後も続くためには、外国人の皆さんと一緒の生活を考えることが、自分達の地域のためでもあると感じたシンポジウムでした。

会場での工夫

会場では、多言語での案内表示、ピクトグラム表示、通常のアルコール消毒液に加えてアルコールを含まないハラール対応の消毒液を用意するなど、さまざまな参加者に配慮した会場づくりを意識しました。

Ⅲ話題提供　―数字で見る新潟県の多文化共生　発表：（公財）新潟県国際交流協会

新潟県国際交流協会の担当者が、県内で暮らす在住外国人の現状をデータで説明しました。

新潟で暮らす外国人の数	国籍別在留外国人	在留資格別在留外国人
18,309 人 **（全県民の 0.8%）**	**1 位 中国　4,893 人**	**1 位 永住者　5,137 人**
新 潟 市 5,899 人	2 位 ベトナム　3,500 人	2 位 技能実習　4,652 人
長 岡 市 2,445 人	3 位 フィリピン　2,704 人	3 位 留学　2,188 人
上 越 市 1,708 人	4 位 韓国　1,700 人	4 位 技術・人文知識・国際業務　1,215 人
南魚沼市 1,025 人	5 位 インドネシア　715 人	5 位 日本人の配偶者等　1,166 人
柏 崎 市　917 人		

（令和２年６月　法務省）

Ⅳパネルトーク　「地域の多文化共生には何が必要？」

明治学院大学教養教育センター准教授の長谷部美佳氏をモデレーターに迎えて、パネルトークを行いました。パネリストとして、三条市立大学のアハメド・シャハリアル学長、介護福祉士として新潟市の福祉施設で働くベトナム出身のグエン・ティ・ホン・シン氏、技能実習生の監理団体として実習生や受け入れ企業の支援を行うグローバルサポート協同組合の時田美和代表理事から登壇いただき、在住外国人を地域で受け入れるための取り組みや、地域の多文化共生に必要な心構えについて様々な視点からお話がありました。

留学生の声

チョウ・ヨウシュンコさん
（新潟大学・中国出身）

アハメド・シャハリアル学長の講演を聞いて、とても励まされました。シャハリアル学長は、これまでに得た経験や成果は、自分一人の力ではないとおっしゃいました。多くの日本人との関わりや支えがあったそうです。この点について、すごく共感しました。実は私も、新潟に来たばかりの頃、結構苦労したからです。しかしながら、日本で生活するうちに段々と言葉が通じるようになり、今では多くの新潟の皆さんが私を応援してくれています。ほぼ毎日カルチャーショックと戦っていますが、自分の居場所を見つけることは不思議と面白く感じます。これからも、異文化コミュニケーションを続けて新潟の皆さんと色々な話をしてみたいです。

サイ・プラカシュ・シダエさん
（事業創造大学院大学・インド出身）

多文化共生シンポジウムに参加して一番感じたことは、留学生としての自分の責任です。貴重な留学生活の機会を駆使するためには、ホスト社会と交流する機会を自ら作ることも、留学生として一つの義務であることを実感しました。日本では人口規模にかかわらず在住外国人数が年々増加し、グローバル化が進んでいる中、日印間の文化・社会の相互理解を推進することを頑張っていきたいという前向きな気持ちになりました。「留学」とは、ただの勉強ではなく、社会の一部となって地域の人々とつながり、社会に貢献していくことが大事であるということが分かりました。

地域で活躍する多文化共生コーディネーターをご紹介します！

「地域おこし協力隊」の制度を活用した多文化共生コーディネーターは、県内初！

新発田市地域おこし協力隊
多文化共生コーディネーター
坂田　佑貴 さん

新潟市中央区出身。20歳の時にフィリピンに短期留学し言語教育に興味を持つ。
帰国後大学に再入学し在学中に非常勤の日本語教師としてデビュー。
大学卒業後に専任講師となり、その後2019年からは国際交流基金により「生活日本語コーディネーター」としてミャンマーへ派遣される。
2021年4月「新発田市地域おこし協力隊多文化共生コーディネーター」着任。

新発田市の基本情報

人口　95,687人（令和3年5月末）
在住外国人数　645人（令和3年5月末）
長く生活する人と働く人で全体の90%近くを占めます。留学生は全体の4%程度です。
在留資格TOP3（令和3年5月末）
永住：203　技能実習：202
日本人の配偶者：39
新発田の名物　アスパラガス、新発田牛、越後姫
おすすめスポット　新発田城、月岡温泉

多文化共生コーディネーターとは？

皆さん、初めまして。この4月に新発田市の多文化共生コーディネーターとして着任した坂田佑貴と申します。

多文化共生コーディネーターの役割は、主に地域に住む外国人住民の方々の支援、さらに日本人と外国人や外国人同士の交流を促進し、国籍や文化に関係なくお互いのことを認め合えるような関係を築くお手伝いをすることです。

普段の市役所での勤務風景

目標は大きいですが、私は着任したばかりなので、今は現状の把握とニーズの調査に努めています。各機関で窓口対応や案内をする方々、地域で日本語指導に尽力されているボランティアの先生方、外国にルーツを持つ児童に関わっている学校関係者の皆様、外国人人材を受け入れている企業の皆様など、多文化共生を取り巻く環境には多くの方が関わってくださっています。

新発田日本語教室の皆さんと
（各種イベントや日本語ボランティア養成講座の開催などで連携しています。）

すでにそれぞれが多方面からサポートに取り組まれていますが、私はそれらの活動と取組を知るとともに、行政の立場からできることを検討しています。今後は聞き取った課題とニーズをもとに、各種イベントの企画や情報発信体制の強化に努めていきたいと思っています。

地域おこし協力隊として不定期でエフエムしばたに出演しています。
（毎週月・水・金　11:45～12:00『地域おこし協力隊に聞く』）

わたしたちにできること

多文化共生社会実現のために、私たちひとりひとりにもできることがあります。なぜなら、多文化共生には地域住民の理解も不可欠だからです。多文化共生という言葉だけ聞くと、非常に堅く難しい話のように思えますが、あまり身構える必要はありません。まずは「知る」という姿勢で十分だと思います。

新発田市の在住外国人向け広報誌「しばたあやめニュース」でALTの先生へインタビュー

小さなことから始めてみる

例えば、テレビや新聞で海外のニュースを見かけたら、これまでよりも少しだけ意識を向けてみる。近くに住んでいる外国人住民の方に挨拶してみる。興味があれば、今後の新発田市の多文化共生イベントにもぜひ参加してみてください。「知る」ことなしには理解はなりえませんし、認め合う関係性も築けません。私は、ひとりひとりの意識のちょっとした変化こそが地域の多文化共生につながっていくと信じています。

さいごに

こんなイベントがあったら参加したい、こんなことが知りたいといった意見があれば、ぜひ私に聞かせてください。いっしょに多文化共生社会の実現を目指していきましょう。

新発田市市民まちづくり支援課
電話：0254－28－9640

2021年度留学生交流推進員をご紹介します！

新潟県国際交流協会では、国際交流活動等に意欲がある県内の外国人留学生を「留学生交流推進員」として登録しています。2021年度は、県内の大学等から推薦された32名の留学生が登録されました。留学生交流推進員は、協会が主催する研修会等に参加し多文化共生や在住外国人支援について学ぶとともに、県内の国際交流団体や学校、市町村から依頼を受けて、出身国の文化紹介や留学生活の体験談を発表する交流イベントに協力参加しています。

これまでの活動

4/23　オンラインミーティング

5/2　ゴールデンウィーク韓国フェア

5/29　多文化共生シンポジウム

7/17　やさしい日本語研修会

2021年度留学生交流推進員（32名）

チョウ・ヨウシュンコさん
出身：中国

シュ・ケンダイさん
出身：中国

リュウ・ブンコウさん
出身：中国

チャスナさん
出身：中国

コウ・タクブンさん
出身国：中国

チョウ・トウトウさん
出身国：中国

イン・チョウムさん
出身国：中国

オウ・チョウビンさん
出身国：中国

ゼン・カオンさん
出身国：中国

イ・ユリさん
出身国：韓国

タン・ジンさん
出身国：ミャンマー

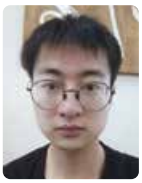
ヴォ・ティエン・トーンさん
出身国：ベトナム

ハー・フーン・ナムさん
出身国：ベトナム

チン・シメイさん
出身国：中国

ゴー・ミィン・チュウさん
出身国：ベトナム

チャウ・トゥアン・キエンさん
出身国：ベトナム



キョウ・ショウコンさん
出身国：中国

レー・タインワンさん
出身国：ベトナム

ムハンマド・アブドル・カリム・モンタナロさん
出身国：インドネシア

アラミンさん
出身国：バングラデシュ

コラトタゲ・チャトミニ・ペレラーさん
出身国：スリランカ

リ・シメイさん
出身国：中国

レジナ・アンチラ・ナタシャさん
出身国：インドネシア

リ・コウイさん
出身国：中国

レ・コン・ダットさん
出身国：ベトナム

カ・ヨウキョウさん
出身国：中国

チン・シュンコウさん
出身国：中国

シャ・イーブウさん
出身国：中国

サイ・プラカシュ・シダエさん
出身国：インド

モウ・ユウショウさん
出身国：中国

リュウ・キンギさん
出身国：中国

ヨウ・リョウブンさん
出身国：中国

留学生交流推進員の詳細はこちら ➡

外国人相談の窓から

外国人相談センター新潟通信

～多様な専門機関との連携～

外国人相談センター新潟
公式 Facebook

外国人相談センター新潟（朱鷺メッセ内２階）

皆さんは、外国籍住民が普段どんなことに悩み、日本での生活に困難を感じていると思いますか。センターに寄せられる相談内容は、多岐にわたります。在留資格に関すること、新型コロナウイルスに関すること、結婚や離婚に関すること、子どもの学校のこと、引っ越しに関すること、起業に関することなどなど、挙げればきりがありません。もちろん、そのすべての相談を当センターだけで解決できるわけではありません。

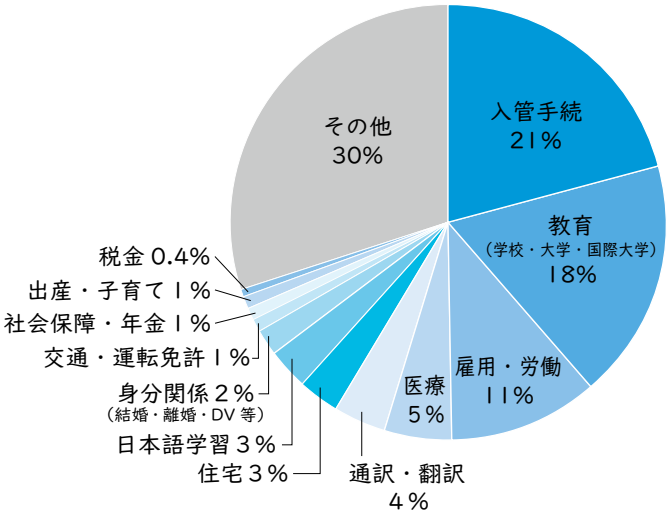
相談に対応する中で、より正確な情報をお届けするため、専門機関との連携が欠かせません。外国人相談センター新潟では、外国につながる子どもたちの教育に精通した相談員を配置した教育相談を週に１回、様々な行政手続きに精通した行政書士が直接対応する行政書士相談と、東京出入国在留管理庁職員による入管相談をそれぞれ月に１回、県弁護士会に所属する弁護士による法律相談を２か月に１回開催しています。このほかにも、総務省新潟行政評価事務所には行政相談に関して様々なアドバイスをいただいています。

今後も、一人一人の文化、価値観、考え方に寄り添い、耳を傾けながら、よりよい解決策へ導くお手伝いをするため様々な機関との連携を強めていきたいと考えています。

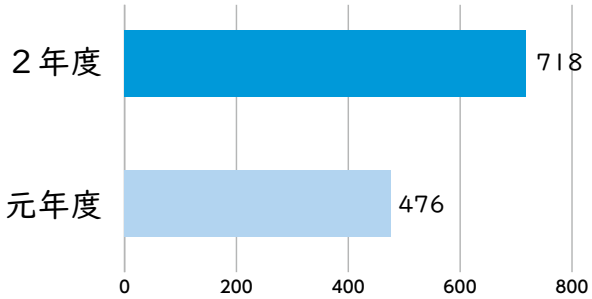
サイネージが目印！

令和２年度の実績報告

【相談内容種別】



【相談件数の比較】



外国人相談センター新潟
Foreign Resident Consultation Center of Niigata

新潟市中央区万代島５-１　万代島ビル２階
025-241-1881　nia10@niigata-ia.or.jp

●相談内容：在留資格、仕事、教育、医療、福祉など生活全般の相談や情報提供。
●窓口開設時間：月曜～金曜　10:00 ～ 17:00　（相談受付は 16:30 まで）
●専門相談（予約優先）：教育相談・行政書士相談・入管手続相談・法律相談に、各分野の専門家が応じます。

詳しい情報はこちら（HP）

ワールドコラム ～Vol. 1 イギリスからこんにちは～

海外で頑張る日本人をご紹介します！

現在は日本に帰国

伊東　結美 さん

- 1992 年新発田市生まれ
- 大学卒業後、国際物流企業に約 1 年間勤務
- 2017 年～ 2019 年までの 2 年間、青年海外協力隊としてマダガスカルに派遣
- イギリス大学院にて、平和学修士号を取得
- 帰国後は NGO に勤務

イギリスでの留学生活

私の大学は、世界 140 か国以上から学生が学びに来ていました。私の寮には、ハンガリー人・スーダン人・インド人・イラク人のルームメイトがいました。学部は違いますがみんなとても仲が良く、毎週末は必ずみんなでごはんを作って食べていました。よく聞かれる、大学院のスケジュールについてご紹介します。1 週間で必須科目と選択科目を 3 コマ履修しました。案外少ないと思われるかもしれませんが、今振り返るとそれでもギリギリのスケジュールだったと思います。さらに私は、スペイン語も履修していたので、朝に寮を出て昼食を食べに寮に戻り、夕方 6 時過ぎに帰宅する生活を送っていました。

ルームメイトたちと

西アフリカ出身の友人たちと

ロックダウン

イギリスは 3 月末からロックダウンが始まりました。幸いロックダウンが始まる前に、全ての対面授業を終えていたので、残りの数か月は教授とオンラインで指導を受けながら、修士論文に取り組みました。2020 年 8 月には、イギリス版 Go To Eat が行われ、現在までにこの 1 か月間のみ行われた経済政策でした。月～水曜日限定で外食を半額にするというもので、この期間はカフェで修士論文を進めていました。

ロックダウン

ブラッドフォードの街並み

コロナ禍での過ごし方

3 人以上の集会は禁止、生活必需品以外での外出も禁止され、出ることができたとしても週 1 回だったので、友だちと会うことも難しい状況でした。ストレス解消のために公園で 1 人サッカーボールを蹴ったり、シャボン玉をしたり友だちと 2 人で凧揚げをしたり、ランニングしたり室内で筋トレなど、様々なことをしていました。また、この機会に一芸を身につけようと、マジックやバルーンアートも挑戦しました。日本にいる家族とも毎週電話をし、支えてもらいながらコロナ禍を過ごしていました。

冬のブラッドフォード

友人と

イギリスで見た・感じた「多文化共生」

コロナが発生した当初、アジア人がコロナを全世界に蔓延させたという風潮が起こり、私も不当な差別を経験しました。イギリス人がたくさん歩く道で、日本人の私だけが職務質問を受けたり、理由をつけて私のみ入店拒否されたり、買い物中に突然地元の方から暴言をはかれることも多々ありました。イギリスの文化や人を一言で表すことは難しく、移民の増加により多民族化していると感じました。Black Lives Matter 運動も頻繁に行われ、日本よりも人種問題にとても敏感な国だと思います。しかし、皆さんが想像する素敵なイギリスも見ることができました。気品のある英語を話す彼らには、柔らかで上品な雰囲気があり、困っている人に手を差し伸べる助け合いの精神が感じられました。

フットボールチーム

Black Lives Matter 運動

イギリス（正式名称は、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国：世界一長い国名！）

人　口　6,680 万人
公用語　英語
面　積　24.3 万平方 km（日本の約 3 分の 2）
イギリス発祥のスポーツは、サッカー（1 番人気）・ラグビー・クリケット・テニス等

≪出典≫
https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uk/data.html

NIA プチ外国文化講座～ロシア編～

読者の皆様、こんにちは！ロシア人のエカチェリーナと申します。お蔭様で新潟県の国際交流員として5周年を迎え、新潟を第二の故郷のように感じています。

さて、皆さんは秋のシーズンを楽しみにしていますか。私は日本の秋もロシアの秋も両方大好きなのですが、今回は「ロシアの秋」を紹介したいと思います。

日本では赤やオレンジ色の紅葉が代表的ですが、ロシア人が「黄金の秋」という表現を使うことからもお分かりいただけるようにロシアの秋は白樺やブナの黄色が主役です。ロシアは国土が広大で、気候が地域によって異なりますが、私の出身地であるシベリアは、ちょうど木の葉が綺麗になる9月中旬頃は小春日和の一日になることも多く、気候的にとても過ごしやすいので、ロシアへ旅行するなら、この時期がお勧めです。

次にロシアにおける学校制度の特徴ですが、日本と異なりロシアの新学期は春ではなく、秋から始まります。ロシアの学生は2～3か月の長い夏休みを終えると、9月1日の入学式を皮切りに、学校生活が始まります。ロシアでは、花を贈る文化があるので、入学式の日に多くの学生は秋の花である菊、アスター、グラジオラス、ダリア等の花束を先生に贈ります。

また、秋は菜園や畑の収穫シーズンになりますから、山の幸もたくさん取れます。私にとっての秋の料理と言えば、香りの良いポルチーニが入った野菜のオーブン焼き、ベリー（コケモモ、クランベリー等）ジュースが思い浮かびます。シナモンが香るリンゴや洋梨のパイも秋に作ったものです。

皆様も美味しい秋の食材を使った心温まる料理を作るのはいかがですか。

ロシアの秋・入学式

ロシアの秋・プーシキン市の秋風景

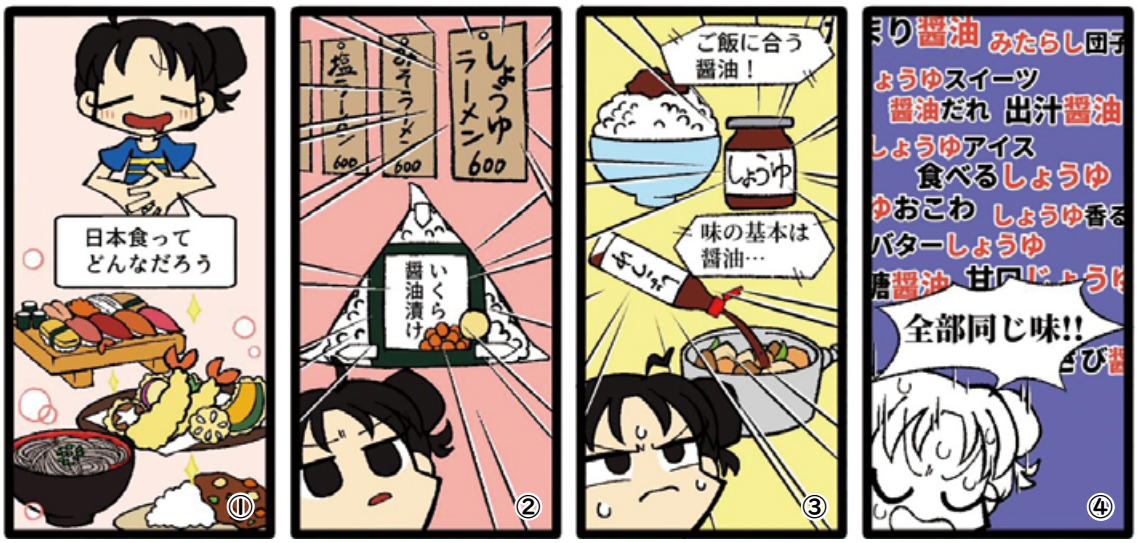
4コマ漫画

留学生が日本で体験したエピソードを、日本アニメ・マンガ専門学校の学生が『マンガ』でご紹介します！

第7弾

タイトル
『レパートリー』

ペンネーム
おーきー



～作者メッセージ～

今回漫画を描かせていただきました。エピソードを通じて自分以外の視点から日本を見られて、文化の違いを感じられたので非常に楽しかったです。少しでも楽しんでもらえたら嬉しいです。

◇おーきー◇　日本アニメ・マンガ専門学校　マンガクリエイト科２年

■発行：公益財団法人新潟県国際交流協会　〒950-0078 新潟市中央区万代島５番１号　万代島ビル２階
TEL：025-290-5650　FAX：025-249-8122　E-mail：nia21c@niigata-ia.or.jp
Web サイト：https：//www.niigata-ia.or.jp/jp/index.html